

## 2024年度日本化学連合事業報告

### 日本化学連合正会員

化学工学会、クロマトグラフィー科学会、高分子学会、触媒学会、石油学会、繊維学会、日本エネルギー学会、日本化学会、日本セラミックス協会、日本ゼオライト学会、日本地球化学会、日本膜学会、日本薬学会

### 化学系学協会連絡会会員

#### 日本化学連合正会員（13学協会）

火薬学会、錯体化学会、DVX $\alpha$ 研究協会、日本ケミカルバイオロジー学会、日本表面真空学会、日本分析化学会、日本放射線化学会、表面技術協会、粉体粉末冶金協会

## 2024年度日本化学連合役員

氏名	役職	選出学協会	委員会など
関 隆広	会長	高分子学会	
鈴木 孝治	副会長	日本化学会	運営委員長/政策提言・情報発信推進WG
林 良雄	副会長	日本薬学会	企画委員長/政策提言・情報発信推進WG
松方 正彦	副会長	化学工学会	将来構想委員長/政策提言・情報発信推進WG
渡部 恭吉	常務理事		運営委員/企画委員/将来構想委員/政策提言・情報発信推進WG
今井 宏明	理事	日本セラミックス協会	将来構想委員/政策提言・情報発信推進WG
鍵 裕之	理事	日本地球化学会	将来構想委員/政策提言・情報発信推進WG
神谷 秀博	理事	化学工学会	企画委員/運営委員
窪田 好浩	理事	日本ゼオライト学会	運営委員
澤本 光男	理事	日本化学会	企画委員
鈴木 慎一	理事	日本化学会	将来構想委員/政策提言・情報発信推進WG
関根 泰	理事	石油学会	運営委員/政策提言・情報発信推進WG委員長
芹澤 武	理事	高分子学会	企画委員/将来構想委員
浜瀬 健司	理事	クロマトグラフィー科学会	将来構想委員
宮田 隆志	理事	日本膜学会	企画委員
村瀬 浩貴	理事	繊維学会	企画委員
村山 美乃	理事	触媒学会	運営委員
吉松賢太郎	理事	日本薬学会	将来構想委員/政策提言・情報発信推進WG
岩澤 康裕	監事		
大塚 浩二	監事		

# 2024年度活動報告

- 運営委員会：  
化学コミュニケーション賞2024の実施  
学協会の活動を顕彰するための学協会優秀アクティビティ賞（仮称）の検討を  
継続
- 企画委員会：第18回日本化学連合シンポジウムの実施および2024年度シンポジウ  
ム（その2）の企画
- 将来構想委員会：日本化学連合のあり方と将来像についての検討
- 政策提言・情報発信推進ワーキンググループ：
- 化学系学協会連絡会：定例会議の開催（2回）
- 功労賞選考委員会：受賞候補者の選考
- 決算

## 運営委員会報告

### 1) 化学コミュニケーション賞2024

当連合の設立趣旨の一つである「化学関係団体が賛同して開催する事業」を強化・発展させるために、化学と化学技術に関係する啓発活動や情報発信を行うことによって、化学教育、化学産業の育成、および発展に貢献した個人ならびに団体を表彰する制度

主催：日本化学連合

共催：化学工業日報社、化学情報協会

後援：科学技術振興機構、新化学技術推進協会、

日本サイエンスコミュニケーション協会、化学同人

協力：Chem-Station

2024年10月1日に募集を開始し、2024年12月10日に締め切り。応募案件について、あらかじめ選任された選考委員により書面評価を行ったうえで、2025年1月7日に開催された最終選考委員会において化学コミュニケーション賞3件と審査員特別賞1件を選定した。

表彰式は、2025年3月4日（火）13:00～13:50にオンラインで開催した。

## 化学コミュニケーション賞2024受賞者

- 1) 「オフ・ザ・ケム\_化学の楽しさを伝える活動」・・・堀越 亮（岡山理科大学）
- 2) 「啓発事業における中学生による化学法則発見」・・・国立大学法人鳥取大学
- 3) 「高校生が企画運営！わくわくサイエンス教室」

・・・宮崎県立宮崎北高等学校サイエンス科

## 化学コミュニケーション賞2024 審査員特別賞受賞者

- 1) 「料理の化学を題材にした普及活動の推進」・・・佐藤陽子（鎌倉女子大学）

## 2) 新たな顕彰制度の検討

一昨年の運営委員会にて、「学協会優秀アクティビティ賞(仮称)」を創設して各学会のすぐれた取り組みに対して「化学連合が学会を表彰するのは意味と意義があるかもしれない」として検討され、さらに本年の運営委員会にて本賞の具体的内容についての継続審議が行われた。その後、10月18日の運営委員会にて賞の募集案をまとめた。

その案を11月18日第2回理事会にて審議いただいたところ、次のような課題があがった。

- ・本賞名称が最適かどうか
- ・本賞対象のより明確化
- ・本賞授与対象範囲の明確化
- ・（上記決定後）賞の規定および審査スケジュールの作成（審査員メンバー構成については了解済み）

そのため、次回の運営委員会にてこれらの課題を審議する予定である。

## 企画委員会報告

2024年度は第18回日本化学連合シンポジウムの実施および2024年度シンポジウム（その2）の企画を行った。

## 企画委員会報告1

### 第18回 日本化学連合シンポジウム「社会実装を実現する化学人材創出における新たな視点」

本シンポジウムでは科学（化学）の未来を支える研究者養成をテーマとして、そこに付随する諸課題と現在進められている強化策の理解を通じて、我が国の科学力や産業力を向上させるために、本連合が取り組むべき活動の方向性について議論した。

開催日時：2025年3月4日（火） 14：00～17：45

開催方式：オンライン開催・参加費無料

- 1) 「博士人材の活躍促進に向けて」 高橋佑也（文部科学省 科学技術・学術政策局）
- 2) 「製薬会社における博士人材の活躍～元研究職の採用責任者より～」 野口哲司（第一三共(株)人事部）
- 3) 「博物学的魅力の周期表元素、驚きと発見で好きになる理科実験、百聞は一見に如かずの分子軌道 — 過去から未来への時間軸の中、物質の世界で生きる 私たちにとっての化学—」 坂根弦太（岡山理科大学）
- 4) 「博士課程で得られるもの≠博士号」 鈴木星牙（三菱ケミカル（株））
- 5) 「博士として、企業研究者として：異分野研究への挑戦」 吉崎友哉（東レ（株））
- 6) 「金融の未来を創る～技術系博士人材の新たな価値～」 羽田貴英（三井住友信託銀（株））

参加者は、78名。

## 企画委員会報告2

### 2024年度日本化学連合シンポジウム（その2）

#### 「海- 化学はどこに向かうのか -」

「- 化学はどこに向かうのか -」を掲げ、継続的に開催できるものにしていきたいと考えている。人類抱える様々な事柄に、化学はどんな具合に関わり何を成し遂げるのかを討議し、参加者の皆様に「化学が開く未来の扉」を共有していただく機会になればと考えます。今回のテーマは「海」です。

開催日時：2025年4月28日（月） 13:00～17:40

開催方式：オンライン開催、参加費：一般：5,000円、学生：無料

講演テーマ：

- 1) 「深海インスパイアード化学：化学が先導する持続可能な海洋利用」  
出口 茂（海洋研究開発機構）
- 2) 「海綿動物はなぜ、どのように生物活性物質をつくるのか」  
脇本敏幸（北海道大学）
- 3) 「海水と淡水の塩分濃度差を利用した新規再生可能エネルギーの技術開発」  
比嘉 充（山口大学）
- 4) 「海の豊富な鉱物資源をどう利用して行くのか？」鈴木勝彦（海洋研究開発機構）
- 5) 「陸域と海域のつながりに着目した環境技術開発に基づく沿岸・海洋生態系保全」  
山本光夫（東京大学）
- 6) 「脱炭素に向けた藻類のブルーカーボン・カーボンリサイクルへの応用」  
田中 剛（東京農工大学）

参加者は、70名。（有料：32名、学生：38名）

## 将来構想委員会報告

2025年1月8日（水）開催

会長からの「日本化学連合の将来像はどうあるべきか議論して欲しい」との指示に基づき、議論し、具体的なアクションを考えた。

委員長から、結論として、以下の3点をまとめられ、今後、一つでも具体化していきたいとの発言があった。

1) 科研費もそうであるが、運営交付金も増やす提言をして欲しい

⇒大学の研究環境をまとめる。

2) 各学会が手探りでやっている企画に対し、化学連合がハブとなり、情報提供・共有の場となればありがたい。現状は個人レベルの繋がりしかない。

⇒情報を共有した方が、負担は低減する。

3) 化学連合の会員学協会が開催する行事

⇒化学連合と共催・協賛することにより、会員学協会の会員サービスになり、化学連合のプレゼンス向上につながる。

## 政策提言・情報発信推進WG報告

2024年12月19日(木)12:00~13:00開催

フリーディスカッションを行い、以下の意見が出された。

- ・化学連合の基本方針である、政策提言と情報発信、化学・化学技術のビジョン発信、化学と化学技術の振興と啓発により社会への貢献に合致した活動を行うことが考えられるのではないかな。

- ・1つの学会では声が小さいので、会員学協会の活動を化学連合が広報・協賛し、一緒になってサポートする体制、いわば、会員学協会の増幅装置として化学連合はあるべきではないか？ そうすれば、継続的な活動となりやすい。

- ・中小規模の学会の連合体として、日本地球惑星科学連合があるが、合同大会を開催しており、盛況である。化学連合も春・秋の年会の一つを化学連合会員学協会の連合大会とするくらいのことを考えなければ。その中で、2, 3の学会の合同シンポジウムなど開催していけば存在感を発揮できる。

- ・CAS SciFinder、ChemOfficeや電子ジャーナルは、価格が値上がりし、一大学では維持できなくなっている。化学連合の政策提言としてなんとかできないか？

- ・会員学協会を超えた役割を果たさなければもったいない。例えば、大きな将来テーマ（カーボンニュートラルや海洋プラスチックなど）を産学官と一緒に、必要なら学術会議と組んでシンポジウムを開催するのはどうか？

- ・関根委員長から、CAS SciFinder、ChemOfficeや電子ジャーナルのコストの高騰問題について、現状を共有したいので年明けに会議を開くよう事務局に指示があった。メンバーは実働部隊を含め、具体的な議論を行う。

## 政策提言発出

1) 「科学研究費助成事業の全体額増加に関する要望書」(2024年3月~)

- ・内閣総理大臣、文部科学大臣宛て
- ・生物科学学会連合が作成し、日本化学連合は会長個人名で参加
- ・日本化学連合では、会員学協会に対し、要望に対する意向調査実施
- ・多くの学会連合や200以上の学協会が賛同し、2024年9月6日に、文部科学大臣への要望書を手交した。

2) 菅裕明先生(内閣府総合科学技術・イノベーション会議議員、東京大学大学院理学研究科教授)との面談

- ・文部科学大臣との懇談で、財務省、内閣府の理解を求めらるうえて、まず内閣府の総合科学技術・イノベーション会議へアプローチすることとなり、東京大学の菅裕明教授と面談した(2024年10月3日)。

3) 上記の対応に関連し、多くの連合から、学会連合連絡会(連合の連合のようなもの)を作る提案があった。

- ・今後もなにか政府・行政等への学術界として大きくまとまって働きかける必要性がでてくる際に、効率的に動くためには連合の連絡会を作っておきたいという趣旨。
- ・規約を作るといろいろと動きが悪くなるので、連絡先(会長と事務局)を名簿にまとめておくという緩やかなもので、生物科学学会連合がそのまとめと名簿管理担当する。
- ・日本化学連合も、学会連合連絡会に参加した。

## 化学系学協会連絡会報告

化学系学協会の幅広いネットワークが必要な時代となっている現状を考え、化学系各学協会事務局の連携、情報交流などを目的として、「化学系学協会連絡会」を2018年に発足させた。

本連絡会は、政府政策等の学協会への情報提供、学協会のプラットフォーム整備のための情報共有、学協会の連携強化などを行い、日本化学連合の会員学会のみならず、多くの化学系学協会にご参加頂くことにより、日本の学協会の発展に寄与すべく活動している。

2024年度の化学系学協会連絡会は、正会員13学協会、連絡会会員9学協会およびオブザーバー4学協会が参加し、連絡会幹事会は常任幹事3名と幹事1名で運営を行った。

本年度は幹事会を1回、定例会議を2回開催した。

参加学協会：（13学協会+9学協会）

日本化学連合参画13学協会

火薬学会、錯体化学会、DVX $\alpha$ 研究協会、

日本ケミカルバイオロジー学会、日本表面真空学会、日本放射線化学会、

表面技術協会、粉体粉末冶金協会、日本分析化学会

オブザーバー参加学協会：

安全工学会、資源・素材学会、日本農芸化学会、日本放射化学会

## 化学系学協会連絡会報告2

化学系学協会連絡会 2024年度第1回定例会議

日 時：2024年12月12日(木) 13:00~15:00

会 場：オンライン開催、参加費：無料、参加者：12名

テーマ：「化学系学協会の人材育成—各学協会の取り組み—」

多くの学協会の目的として「研究の発展と人材育成」が謳われているが、人材育成に関しては体系的な対応が出来ているとは言いがたい。他学会の人材育成事業や若手啓発活動を参考にして、自学会の人材育成を強化したいという要望が多くある。そこで、実際にこの課題に取り組んでいる事例を紹介いただき共有した。

化学系学協会連絡会 2024年度第2回定例会議

日 時：2025年2月28日(金) 13:00~15:00

会 場：オンライン開催、参加費：無料、参加者：16名

テーマ：「各学協会に固有の課題紹介」

連絡会幹事会において、事務局人事制度の見直し、支部および研究会自主運営のあり方、コロナ後の年会の開催方法について、中長期戦略策定方法についての課題が出され、他学会の意見を聞きたいという意見が多くあった。そこで、第2回定例会議では、「各学協会に固有の課題」を紹介いただき共有した。

## 功労賞受賞者受賞候補者の選考

「功労賞」は2021年度に新設された。2024年度の功労賞候補者の推薦を依頼したところ、1名の推薦があった。

2025年2月21日に会長、副会長、常務理事による選考委員会を開催し、日本化学連合功労賞選考規程に従い、選考を行った。

審議の結果、松岡 徹氏（石油学会 事務局長）を全員一致で受賞候補者とし、理事会での承認を得て受賞者を決定した。

表彰式は社員総会時に執り行い、表彰状と副賞を授与する予定である。